

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072300561		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム野いちご式番館		
所在地 (電話番号)	福岡県八女市新庄567-1 (電話)0943-30-1577		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 8月 6日	評価確定日	平成 21年 9月 9日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.9人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(72000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	140 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	64 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	城戸医院 大内医院 川崎病院 ほり歯科医院 有明クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

野いちご式番館は、市街から離れた静かな田園地帯に位置し、木造平屋建ての家庭的な趣のある建物は天井が高く開放的で、木を基調とした内装が落ち着きと温かさのある雰囲気を出している。リビングにはソファや畳のスペースがあり、ご利用者が思い思いにゆったりと寛げる場所となっている。ホーム横の空き地には、地域の方々が、ご利用者のためにと、桜の木を植えて下さり、季節に応じてコスモスや菜の花が眺められるように苗の植え付けをして下さっている。地域との交流に力を入れておられ、運営推進会議には、沢山の地域の方々も参加して下さっている。花火大会や虫の見学に行くなど、ご利用者が楽しみにされている夜の行事も毎年継続して行われている。職員は、自分がされて嫌なことはどのようなことかを、何事にも、ご利用者の立場に立って考え、日々ケアを行っている。ご利用者の『今』を大切に“今出来ること”“今を楽しく過ごす”事の大切さを、勉強会の中で話し合い、ご利用者主体のケアの実践に向け、取り組みが行われているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を基に、ご利用者の安全確保の意味で、スリッパに鈴をつけていたが、人権について再度検討し、鈴はずし、更に職員による見守りの強化を図った。また、職員の育成のために、研修の受講機会を多くするなどの取り組みが行われた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や部長が、外部評価の意義と共に、監査を受けるという職員の認識に対し、「背伸びせず、ありのままを見て頂き、改善して行こう」と追加説明が行われた。今回の自己評価は、管理者や部長が、業務の合間に職員1人ひとりに個別に意見を伺い、1つにまとめられた。自己評価をすることで、ご利用者への言葉かけについて再確認したり、理念に添ったケアができていたかを見直す機会となった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、ご利用者やご家族、区長、元区長、民生委員、老人会会長、市の担当者などに参加して頂き、開催されている。ホームの近況報告、行事の予定、質疑応答等、和気藹々とした雰囲気の中、参加者による活発な意見交換が行われている。行事の時の職員の対応について助言を頂いたり、「ホーム前の砂利道を車椅子で散歩するのは大変だろう」と、市の担当者に掛け合っ下り、舗装工事が行われるなど、日頃から、ホームのご利用者のために助言を頂き、協力して頂いている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ご利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態など、ご家族の面会時や毎月のお便りで報告が行われている。遠方にお住まいのご家族には電話で状況を報告している。ご家族より意見や苦情を言って頂けるよう意見箱を設置したり、来訪時に「気づいた点など、遠慮なく言って下さい」と職員が声かけを行なっている。頂いた意見や要望は申し送り連絡ノートに記録し、全職員に見てもらい情報を共有するとともに、会議等でも報告し、対応策を職員も含め話し合い、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りや校区のお祭り等にご利用者が参加されたり、地域活動の一環である清掃活動や寄り合いに職員が参加したりしている。事業所主催の夏祭りには、地域の方や子供たちに来て頂き、ご利用者と一緒を楽しむひと時を過ごして頂いている。自治会にも加入し、地域の中の一軒のお家として、地域の皆さんが接して下さっており、日頃から助けて頂くことが多い。お彼岸やバレンタインの時に、ご利用者手作りのお菓子を日頃お世話になっている地域の方に配ることもある。地域の方が、ご家族のことでホームに相談に見えられることもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社内の他グループホームの理念をもとに職員で話し合い、今出来ることを先延ばしにせず、その時々出来ることを行い、常に上を目指す気持ちを持って『今を大切に』という考えの下、7つの理念を掲げた。「なじみのある場所で、四季折々の季節や五感を感じる生活を支援します」「地域の特性を活かし、地域と密着した認知症対応型共同生活介護サービスを目差します」という理念を作った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者の『今』を大切に“今出来ること”“今を楽しく過ごす”事の大切さを、勉強会の中で話し合っている。ご利用者主体のケアが実践できているのかを、ご利用者の立場になって、全員で話し合っている。事例を通して「今、しなければいけない事の大切さ」を、職員同士で伝え合って、常に意識して支援している。町内会に入り、町内行事に参加したり、夏祭りを主催して地域住民や子供たちとの交流を図るなど、地域密着型サービスを目指し、日々取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の“よど祭り”や校区のお祭りに毎年招待を受け参加したり、地域の方から「一輪車を持って取りにおいで」と声を掛けて頂き、畑で採れた野菜を頂いたりしている。地域活動の一環である清掃活動や寄り合いに職員が参加したり、事業所主催の夏祭りに、地域の方や子供たちに来て頂き、ご利用者と一緒に楽しいひと時を過ごして頂いている。自治会でも、地域の中の一軒のお家として、地域の皆さんが接して下さっており、困ったことがある時など、日頃から助けて頂くことが多い。	右の欄に続く	お彼岸やバレンタインの時に、ご利用者手作りのお菓子を、日頃、お世話になっている地域の方に配ることもあり、「あんこが入ってなかったよ」と笑いながら、率直な意見を言って下さるほどの関係作りができています。地域の方が、ご家族のことでホームに相談に見えられ、「ここに(ホームに)入居させたい」と言って下さったことも、ホームが地域に受け入れて下さっていると感じられ、職員の励みの1つとなっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や部長が、申し送りの時間を利用して、外部評価の意義について説明を行った。監査を受けるという職員の意識があり、「背伸びせず、ありのままを見て頂き、改善して行こう」と追加説明が行われた。今回の自己評価は、管理者や部長が、業務の合間に職員1人ひとりに個別に意見を伺い、1つにまとめられた。自己評価をすることで、ご利用者への言葉かけについて再確認したり、理念に添ったケアができていたか等、見直す機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族、区長、元区長、民生委員、老人会会長、市の担当者など多くの方に参加して頂き、2ヶ月に1回開催している。ホームの近況報告、行事の予定、質疑応答等を行っている。次回開催の1ヶ月前には、次回の議題内容等をお知らせしている。地域の方々の寄り合いの場所といった和気藹々とした雰囲気の中、活発な意見交換が行われている。会議の中で、「ホーム前の砂利道を車椅子で散歩するのは大変だろうと、市の担当者に掛け合っており、舗装工事が行われるなど、日頃から、ホームのご利用者のために助言頂き、ご協力頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や部長が介護保険の申請時期や運営推進会議の案内状、野いちご新聞を持って定期的に市の窓口を訪問している。他市にお住まいの方の入居にあたり、住所地変更について市の担当者に相談するなど、気軽に相談できる関係にある。昨年まで、八女市介護保険連絡協議会の事務局を任されていたことで、市の担当者と連絡を取り合うことも多く、いつでも相談に乗って頂ける関係ができています。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の声をかけを行い、参加した職員が全体会議で報告を行ったり資料を配布している。ご家族へは、入居契約時に口頭での説明は行っている。パンフレット等の備え付けはされていない。今までに制度利用のご希望等はなく、活用までの積極的な働きかけまでは行っていないが、今後、ご家族と相談しながら必要な時に支援していく予定である。	○	伝達研修により、一部の職員は制度の概要を理解されているが、新任職員への研修はまだ行われていない。制度に関するパンフレットを備え付けられると共に、新任職員やご家族への説明時にも、パンフレットを活用されてみてはどうかであろうか。運営推進会議に出席して頂いている方の中には、制度に詳しい方もおられると思われることから、制度に関する理解を深めていくために、講師をお願いされてみてはどうかであろうか。今後の取り組みに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族面会時に日頃の暮らしぶりなど、ご家族が知りたいと思う内容を含め、個々にあわせた報告を職員が行っている。担当者が、毎月のお便りに健康状態や金銭管理の報告を記載し郵送している。健康に異変があった時は電話で報告している。また、面会の少ない遠方にお住まいのご家族には電話で状況を報告するようにしている。職員の交代に関しては、ご家族面会時に報告すると共に、直接新任職員本人に会って頂き、紹介を兼ねた挨拶を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より意見や苦情を言って頂けるよう意見箱を設置し、来訪時に「気づいた点など、遠慮なく言って下さい」と声をかけを行なっている。ホーム主催の夏祭りについて、「職員が忙しそうで、ご利用者のケアが手薄になるのではないかなどのご意見を頂いたこともあった。頂いたご意見や要望は申し送り連絡ノートに記録し、全職員に見てもらい情報を共有するとともに、会議等でも報告し、対応策を職員も含め話し合い、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動は極力なくし、離職を最小限にする為に、休みの希望には極力応じている。また、日頃の様子を見てストレスがあると思われる時は、個人面談を行い悩みを聴取したり、食事会等職員親睦の場を設けている。年に1回、3回に分けての職員旅行も行われている。職員交代によるご利用者へのダメージを防ぐ為、ご利用者に合わせた説明をしたり、新任職員へのご利用者の情報提供やケアの指導等を、部長や先輩職員が行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたり性別、年齢、宗教、出自等で対象から外す事はない。ご利用者の立場になって考えることができる方を主に採用している。得意な事をご利用者に対し積極的に発揮して頂けるように、お菓子作りや調理等、個人の持つ能力を尊重し活かせる場を提供している。料理が苦手な職員には、他の職員がフォローするなどの体制も整っている。介護福祉士など、職員の資格取得等のために勤務調整希望に極力応じたり、勉強会も開いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者や部長は、人権に関する外部研修に出来るだけ参加するように職員に声をかけている。参加した職員は、研修報告書を提出し、勉強会で伝達研修を行ったり、資料の配布を行っている。同法人内のグループホームの施設長が、これまでの経験を活かし、合同職員会議において、人権に関する話をして下さっている。ご利用者の人権や尊厳を十分理解するためには、まずは認知症という病気を理解する必要があると管理者や部長は考えられており、今後も勉強会で取り上げていく予定である。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を、月1回の内部研修や事業者協議会主催の研修会に定期的に参加させるなど、学びの機会の確保をされている。研修に参加した職員が伝達研修を行っている。新任職員に対しては、職員の質の向上を目的として、管理者や部長、チーフ、その日のリーダーなど、指導担当が職員育成の役割を担っている。研修のお知らせ等があると、職員のレベルに合わせて研修を受けてもらっているが、職員1人ひとりの育成計画までは作成されていない。	○	外部研修の受講や内部での研修、勉強会など、職員の質の向上に向けた積極的な取り組みが行われているが、職員の立場や経験、習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、職員毎の目標を設定し、目標達成に向けた育成計画を作成されてみてはどうか。更なる取り組みに期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の必要性を認識され、平成15年に施設長が八女市・八女郡合同のグループホーム部会を立ち上げられた。他事業所との合同研修や事例検討、意見交換会等に積極的に職員も参加している。特に、グループワークでの意見交換を通して学ぶことが多く、日々のケアに活かすことで、サービスの質の向上につながっている。相互訪問したいという意見も聞かれ、実施に向けた検討が行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に部長等が自宅や病院を何度か訪問し、顔馴染みの関係を作りながら、情報収集を行っている。入居前に1～3日体験利用して頂き、ご本人に納得して頂き入居して頂いている。入居後も出来るだけ以前と同じ状況で安心して過ごせる環境に配慮している。ホームでの生活に慣れるまでは1対1の関わりを多く持ち、ご利用者の不安の軽減を心掛け、日々接している。ご本人の意向に合わせて、好きな散歩や体操などをして頂いたり、持参品から話のきっかけ作りをするなどの取り組みも行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しやらっきょの漬け方、料理の味付けなど、ご利用者が得意とされることを職員は教えて頂いている。手の振戦があるご利用者には、「難しいかな」と思うお団子作りなどが成功したとき、ご利用者と一緒に喜び感動することがある。業務の終わりに、「気をつけて帰ってね、明日も来てね」と労いの言葉をかけて頂くことで、この仕事へのやりがいを感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との会話の中から、意向を汲み取ったり、居室で世間話をしながら、ホームでどのように暮らしていきたいかを伺っている。本心を語って頂けるように、リラックスできる雰囲気作りに努めている。意思疎通が困難な方にも、ご家族からお話しを伺い、生活歴や生活習慣、趣味等を把握し、ご利用者の行動・表情から思いを汲み取るよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当で介護計画の原案を作成し、原案を基に全職員で話し合いを行っている。ご利用者が得意とすることなど計画に盛り込んでいる。計画には、職員間でのケアを統一するために、具体的な手順も記入されている。計画を作成する過程において、ご利用者、ご家族以外に、かかりつけの医師からも意見を頂いている。地域の方々との交流は盛んに行われているが、計画の課題・目標に「地域で暮らす」という視点が計画に盛り込まれていない計画が一部見受けられる。	○	地域の方々との交流が盛んに行われており、「地域で暮らす」という視点も含め、計画に反映されてみてはどうかであろうか。また、毎日のように訪問されているご家族もおられ、ご家族が担ってられる役割を計画の中に盛り込まれることで、更に個別具体的な介護計画の作成につながるものと思われる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者について、月1回、計画作成担当が、全員の体調や生活の変化など確認し、担当の職員とケアの変更の必要性など検討を行っている。短期目標に合わせて、モニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見を伺いながら介護計画の見直しを行っている。状態が変化した場合は、随時、見直しを行い介護計画の変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、通院介助や個別の外出支援等を行っている。法人内の看護師とは、24時間オンコール体制が取られており、かかりつけ医への報告を徹底することで、異常の早期発見、早期治療につなげている。入院中もお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか、かかりつけ医との連携を取り、早期退院に向けた話し合いも行われている。地域の方からの介護相談にも応じ、高齢のご夫婦に、居宅支援事業所を紹介するなどの支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族等の要望を伺い、以前からのかかりつけ医で受療頂いている。3割のご利用者は往診を受けておられ、7割のご利用者は職員が通院介助を行っている。かかりつけ医とは連携ができており、月に2度の往診時に、ご利用者の状況、暮らしぶり等を細やかに報告しており、いつでも相談できる関係ができています。往診時の結果や受診結果は、ご家族に報告している。通院されているご利用者の中には、待ち時間が耐えられない方もおられ、往診を受けたいと希望されているご利用者もおられる。	○	ご利用者の希望で、受診時の待ち時間が辛く、往診して下さる医師に担当を変更したいとかかりつけ医に相談されたが、以前から診ておられた関係で「連れてきてほしい」と言われ、職員が同行して現在も通院を続けておられる。緊急時の受け入れ病院ということもあり、かかりつけ医の変更が困難ということであれば、待ち時間が少なくてすむ外来の時間帯を教えてくださいなど、再度関係者と話し合いをされてみてはどうかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取り体制は整っており、入居時にご利用者、ご家族に説明を行っている。全ご利用者、ご家族がホームでの看取りを希望されており、日頃往診をお願いしている医師が、ご利用者の状態悪化の場合、往診回数を増やして下さったり、夜間でも駆けつけて下さっている。ご利用者の体調など、状況に合わせて、ご家族や医師とその都度話し合いを繰り返し、状況によってはご家族にも泊まって頂き、お手伝いして頂いている。施設長を始め、看護師の資格を持っている職員へ、24時間オンコール体制が取られており、夜勤の職員も安心して勤務ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう職員は注意している。自分がされて嫌なことはどのようなことかを、何事にも、ご利用者の立場に立って考え、ケアするように配慮している。職員が、ご利用者の居室を入室する時は必ず声かけを行い、ご利用者を否定するような言い方はしないようにしている。職員は、個人情報が書かれた書類やメモなど、来訪者の目に触れる場所には放置せず、話しをする時は他に聞こえないよう配慮するなど、情報の漏洩防止にも努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として日課としていることも、無理強いせず、なるべくご利用者の希望に添うよう支援している。朝が弱いご利用者には、起床の声かけを最後にしたり、朝食の時間を遅らせるなどの対応も行っている。希望を表現しない方場合は、行動や表情から思いを汲み取る努力を行っており、なるべくご本人のペースで自由に行動して頂くようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に食べたい物のご希望を聞いたり、食材の買出し・下ごしらえ・盛り付け・配膳・下膳・テーブル拭き等、お一人お一人のお力に応じた役割を担って頂いている。旬の食材を取り入れたり、畑で採れたきゅうりやなす、ピーマン、玉ねぎ等を使ったり、だご汁・里芋饅頭など郷土食も摂り入れられている。職員も同じテーブルと一緒に食事をしており、楽しい食事となるよう共通の話題を提供するなど、毎日心がけている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後2時から4時半の間で、概ね1日おきに入浴して頂いている。当日急遽、入浴したいと言われる方もおられ、ご本人の希望に応じて対応している。一人ずつゆっくり入って頂き、体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温、同性介助等ご利用者の希望に合わせている。柚子湯や菖蒲湯を採り入れ季節を感じて頂いている。年1回程度は近くの温泉に出掛けて入浴を楽しんで頂き、職員も一緒に温泉に入り、楽しいひと時を過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮して頂けるよう、裁縫や掃除、洗濯物たたみ、調理など役割を持って頂くようにしている。カーテンを閉める事を係りとされている方や、職員の相談を親身に聞いて下さるご利用者もおられる。ご利用者の多くは、朝の体操や散歩、行事での外出を楽しみにされている。花火大会や蛍の見学に行くなど、ご利用者が楽しみにされている夜の行事も継続して行われている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝夕のお散歩や、ホームのバスで蛍を見に出かけたり、花火大会の見学などに出かけている。また個別の買い物や、食料品の買い物などの外出も行っている。朝夕のお散歩は、地域の方々とのお話を楽しくめるように、町の中を散歩するようにしている。ご利用者の個別の外出希望に添うよう支援しているが、無理な時には理由を説明し、ご本人の納得のうえ、日程を変更して頂いている。外出以外にも、気分転換を兼ねて、デッキや玄関の前に出て、外気に触れて頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21時から翌朝5時半まで、防犯上の施錠以外は行っていない。ご利用者の行動を職員全員が把握し、職員は夜間ロビーのドアを開けて廊下に机を出して記録をする等、小さな物音も聞き逃さず、直ぐに対応できるよう配慮している。玄関にセンサーのチャイムを設置し、お1人で外出される方の行動パターンを把握しており、職員が互いに気配りしながら見守っている。日中の様子から、気になる時は夜勤の職員に申し送り、頻りに居室を訪問するなどの対応も行われている。昨年以降、スリッパの鈴はずした。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災を想定した避難訓練を行っている。ご利用者に参加して頂き、消防署の方に指導を受け、火災時と合わせて、夜間を設定しての訓練も行っている。定期的に訓練が行われているせいか、参加されるご利用者に不安はなく、ニコニコと手をつないで訓練に参加されている。ホームの近くの消火栓を使用しての訓練も行っている。運営推進会議に参加して頂いている地域の方々に、災害時の協力をお願いしている。災害時に備えて、食料や水の確保ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立を参考に献立を作成している。ご利用者の好みに合わせて、肉を魚にするなど、食材を変えたり、油で揚げずに湯引きにするなど、調理方法を変えている。定期的な体重測定や看護師が健康チェックを行い、血液検査結果に基づき医師からの指示・助言を頂きながら、ご飯の量を調整したり、疾患により個別の味付けや水分量に対応している。食が進まない時は医師に相談して、高カロリードリンクを飲んで頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りの建物内は、天井が高く広々とした開放的なリビングを中心に、左右に各ユニットの居室が続いた造りとなっている。対面キッチンから調理の音や香りが漂い、家庭的な雰囲気が醸し出され、食卓やテーブル・ソファが置かれ、ご利用者が思い思いの場所でゆっくり寛げる空間となっている。ご利用者と一緒に行った季節の飾りや月毎のカレンダーが壁に飾られている。壁を挟んだ位置に、各ユニットのたたみのスペースがあり、行事の時にユニット間の壁を取り除くと広い空間となり、色々な催し物の舞台にもなっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン・冷暖房器具・照明はホームに備え付けられている。ベッド・鏡台・たんす・人形・時計・籐の椅子など、ご本人と相談して、使い慣れた身の回りの物を持って来て頂き、馴染みの空間を作れるよう、ご家族にご協力を頂いている。お位牌を持って来られたり家族の写真を貼ったりされている。居室入り口には手作りの表札が掛けられ、室内の電気をご自分で消せるように紐を長くするなど、居心地よい空間作りを行っている。ホーム行事や生活状況の写真をアルバムにして、ご家族と一緒に楽しめるようにしている。		